

都市と農村兒童の體格發達の研究

——第一報——

兒 玉 省

昭和十七年春筆者は都會と農村の兒童の誕生から學齡までの體格發達の研究を開始した。農村人的體格とか都會人的體格というものが考え得られるなら——筆者はそれは可能だと思ふ——それは誕生後いかなる姿で展開してゆくであろうか。農村の兒童と都市の兒童はいつ頃から違つた様相を呈し始め、その差異はいかなる方向にいかなるテンポで展開してゆくであろうか。まことに大きい問題であるが筆者は此難しい問題の極く一部分になりともメスを加えて見たいと願つたのである。

對象兒童。農村といつても色々あり都會的環境といつても色々ある。然し研究の便宜上農村は、我々が従來農業期託兒所を開設したりしていくらか親しい關係にあつた東京から郊外電鐵其他で約二時間半の到達距離にある神奈川縣の菅及び細山の兩部落をえらんだ。都市としては東京本所の工場街附近の一地域と、築地の一地域をえらんだ。農村地域はえらんだ子供達の住んでいる地域は大して差異のない地區環境と見ていゝのであるが、複雑な東京の環境にて就は、其環境の同一性を、工場街の地區という點と、比較的まよまつた環境を

構成してゐると思われた築地を選ぶことによつて、何とか獲得しようとしたのである。子供はどの子供でも誕生直後からという譯にいかなかつた。ある子供は誕生直後から、あるものは二ヶ月目からという具合にならざるを得なかつた。

研究方法。研究方法としては、最初は全體日と時間をきめて一ヶ月に二回づゝ研究所附屬の助手其他が子供の家庭を訪問して、一回に三時間づゝ繼續觀察をした。此れらの家庭の大部分は人手が多い家なので、觀察者は二人一組を作つて訪問して、一人が専ら觀察記録中他の一人は家の手傳いなどに従事したものである。觀察は一分間目盛りで刻々現われてくる行動の種類と變化を記録した。其後此觀察は一年餘續けられたが、戰爭がはげしくなるにつれて繼續できなくなつた。そして殘念な事には本所の工場地帯其他は戰災で跡方もなくなつて了つた。其處に住んでいた子供達はどうなつたか分らなくなつた。

觀察の結果。終戦後日本女子大學兒童研究所は助手と日本女子大の學生の協力を得て、再び此研究をとり上げてゐる。然し東京では新しい子供をとり上げなければならなかつた

し、農村の子供の研究の方は途中数年間の空白ができて了つた。このような事情でここに御報告する資料は數年前の資料で、都市の兒童として東京都本所と築地の子供十七名、農村の子供十一名の各々月齡五ヶ月の終り迄の觀察結果である。

第一表 研究對象兒童一覽

本 所												地 域		
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	兒童番號		
男	女	女	女	女	男	女	男	男	男	男	女	性 別		
テゴミシテイ												環 境		
環境悪シ												食 事 及 び		
母乳												食 事 の 方 法		
時間的												取 扱 ひ		
寢カス														
ゴミシテイ	工場地帯	娯樂街	一帯ニ靜カ	工場地帯	カレイジノ裏	ゴミシテイノ裏	小工場地帯	工場地帯	近所ニ子供多シ	ゴミシテイノ路	工場地帯	工場地帯	兒童番號	性 別
母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳
時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的	時間的
寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス

細		山			菅							築 地			
28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
男	女	女	男	男	女	女	男	女	男	男	男	男	女	女	女
農	農	農	農	半商半農地	半商半農地	半商半農地	半商半農地	半商半農地	農 村 近 郊	半商半農地	下町商店街	下 町 街	下町商店街	工 場 地 帯	河 岸 裏
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳
臨機	臨機	時間的	臨機	時間的	時間的	臨機	臨機	臨機	臨機	臨機	時間的	臨機	時間的	臨機	時間的
寢カス	寢カス	寢カス	抱ツコ	抱ツコ	寢カス	負ンブ	負ンブ	負ンブ	負ンブ	抱ツコ	抱ツコ	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス
母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳	母乳
臨機	臨機	時間的	臨機	時間的	時間的	臨機	臨機	臨機	臨機	臨機	時間的	臨機	時間的	臨機	時間的
寢カス	寢カス	寢カス	抱ツコ	抱ツコ	寢カス	負ンブ	負ンブ	負ンブ	負ンブ	抱ツコ	抱ツコ	寢カス	寢カス	寢カス	寢カス

第一表は子供の性別、家庭所在の環境、食物の種類及び授乳の方法、其他各家庭に於ける子供の取扱方法を示すものである。本所築地の子供が二人を除いてあと全部、殆んどいつ

も寝かされているのに對して、菅、細山の子供の過半数以上が抱っこされたり負んぶされている。授乳の方法も東京の子供が四名を除いて一定の時間々隔をおいて與えられているのに對して農村の子供は三名を除いてあと全部が臨機に不規則的に與えられている。食事の種類は農村側が全部母乳なのに對し、東京の子供の三・四割が混合榮養又は人工榮養であつた。

第二表 兒童の示した行動種類別百分率

項目	地域			
	本所	築地	菅	細山
睡眠	28.0%	14.0%	30.1%	26.8%
平、靜	22.6	29.2	20.8	28.6
泣	4.5	1.0	5.1	4.9
不快	3.0	9.9	7.8	10.1
笑	9.8	7.3	3.4	2.2
喃語	5.6	5.5	4.7	3.7
自發性行動	32.0	45.4	19.4	11.2
授乳	8.7	12.5	12.4	10.5
生物的世話	2.0	2.9	3.1	2.9

第二表は觀察記録せられたあらゆる種類の行動の中、性格に最も關係のありそうな行動の種類をとり上げ、それらの各種類の行動が現われた時間量を全觀察時間で割つて求めた。

パーセンテージで、各地區の子供の平均値である。但し此の表中の行動種類の時間は重複しているものがある——例えば笑い乍ら自發性行動を示すなど——ので、其和が百パーセントになるとは限らない。自發性行動とはシャローッテ・ビュウラー女史の定義せるように、一見無目標的な、とくに手足の運動である。また生物的世話とは、此表では授乳以外の、おしっこをさせたり、おしめを取かえたり、着脱衣などの世話を包含するものである。此場合、子供自身の行動というよりも、寧ろ子供が世話をして貰うのであるが、大小便などの事が關係するので此處に包含させた。

表は何を暗示するであろうか。

一、睡眠(但し築地だけ例外)平靜、喃語、授乳、生物的世話の諸項目に於ては、此四地區の子供の間にたいした差異は認められな。

二、然るに「笑う」「自發性行動」の面に於ては、本所築地の二東京地區と、菅、細山の二農村地區の子供の間に平均的に可なりの開きが見出される。此數字通り讀んでいゝとしたり、都市の乳児の方が五ヶ月の終り迄の所では、農村の乳児よりヨリ多く笑うし、ヨリ多く自發性行動を示しているのである。

三、「泣く」「不快的表現」「睡眠」に就ては、本所、築地の兩地區の子供の間にかなりの差が現われている。

四、之れを要するに、右「三」のように本所築地の子供の間にも可なりの開きのある行動面もあるが、(三一頁(つづく))

十二月

誰とでも仲よく遊ぶ。
歸りの仕度は皆と一緒に。

共有物の扱い方。

登所してする事をきちんと。(辨賞、手
拭、連絡帳を夫々の置場えきちんと)

一月

椅子を机の中に入れる(立つてから)
年上の人の云うことをきく。
新年の挨拶。
並んだ順に(あとから行つたら後につく)
お友達が待つてゐる時は早く。
つげ口しない。

二月

友達をいたわる(痛い時等)
部屋では小さい聲で話す。

目上の人に對する丁寧な言葉づかい。

二、三名残して完了。

受身で出来る。

完了。

受動的に半数可能。

未完。

顔をみられて気がつく程度。

(三八頁より) 都市の乳兒全體農村の乳兒全體として見る時
に、笑うことの少ない農村の子供、自發性行動の少ない農村
の子供は既に五ヶ月迄の終りに於て性格的差異を示しつつあ
ると見ることができるとはなからうか。

今此れだけの例數及び觀察時間文けをもつて早急に判斷す
ることは許されない。特に各兒童の個人差の問題が考慮され
なければならぬから、一層の慎重を要する次第である。だ
う右の第四のような考え方が許されると思ふ理由が一つあ

る。それは終戦後、我々の研究所を中心に、日本女子大の學
生諸氏多數の協力を得て、もう少し年上のもつと多數の幼兒
の性格調査をなしつつあるが、それが都市と農村の兒童の性

格の上にならぬ開きが見られるような結果を示している。然
しそれにしても此研究の對象となつた乳兒に關する結論とし
ては依然慎重であることが必要である。それ故に我々は、此
結果を更に將來の研究の一提案として取り上げるに止めな
ければならぬであらう。で終戦後再開した此研究がどんな
風に結實するかは勿論まだまだ未知數であるが、いくらか部
分的にでもまとまつたら讀者諸賢の御批判を仰ぎたいと思
う。